

学会報告奨励賞

述語的用法における形容詞長語尾形及び短語尾形の
意味特徴について「一時的特徴」、「恒常的特徴」に関する一考察⁽¹⁾

臼 山 利 信

0. はじめに

今日、学校文法や数多くの学術文献では、形容詞述語の語尾形式による意味特徴の相違の一つとして、長語尾形は「恒常的特徴」を、短語尾形は「一時的特徴」を表示するという見方が広く認められている。例えば、以下に挙げた(1a)は“У него вообще слабое здоровье.”という文意で長語尾形 *больной*⁽²⁾ は「恒常的特徴」を表示している。それに対して(1b)は“Он болеет в настоящий момент.”と解され、短語尾形 *болен* は「一時的特徴」を表示している。

(1a) Он *больной*. (概して) 彼は病弱(な者)である。

(1b) Он *болен*. (現時点で) 彼は病んでいる。

本稿の目的は、このような従来の見方を語尾形式という形態ではなく、意味の観点から見直し、両特徴の表示に関する筆者の見解を示すことにある。

本題に入る前に検討の対象となる「一時的特徴」と「恒常的特徴」を厳密に定義しておきたい。本稿でいう「一時的特徴」とは、形容詞述語によって表される、現在時制において文脈や時の状況語等による期間の明示なしに「発話時点」という瞬間的期間に限定されて現れている状態(質的状态)である。一方、「恒常的特徴」とは、現在時制において恒常性を示す指標となる外的な要素なしに形容詞述語が表す、時間に関与しないとされる性質(質)である。

1. Виноградов В.В と伝統的な見方の確立

形容詞述語において長語尾形が恒常的な特徴を、短語尾形が一時的な特徴を表示するという見方は、基本的には、Стоюнин В. の“Высший курс русской грамматики”(1876)の中ではじめて指摘され、その後、Пешковский А.М., Шахматов А.А., Щерба Л.В. らの指摘を経て、Виноградов В.В. の“Русский язык”(1947)においてほぼ定式化されたという経緯を持っている⁽³⁾。この見方が定式化されるほど幅広い支持を得たのは、私見では、Виноградов 以前の説明では両特徴の意味内容が漠然としていたのに対して、Виноградов はそれを

「質 *качество*」「質的狀態 *качественное состояние*」という意味概念を導入してより明快に説明したことによる。*Виноградов* は「形容詞短語尾形と長語尾形の間に益々より顕著な意味的な境界 *семантическая грань* が形成されており、形容詞短語尾形における質の意味が質的狀態に移行している」[2・264]との認識に立ち、長語尾形は本質的に**対象に固定的で時間に関与しない性質**という「質」を表しており、また短語尾形は本質的に**対象の、あるいは対象に関わる、時間の中で捉えられる状態**という「質的狀態」を表していると指摘したのである。例えば、冒頭で示した(1a)の長語尾形 *больной* は主語である対象 Он に固定された、時間に関与しない性質、つまり、「質」を表し、(1b)の短語尾形 *болен* は Он の現時点での健康状態、すなわち、「質的狀態」を表していると考えerわけである。

しかしながら、実際の言語事実に照らしてみると、形容詞述語において各語尾形式に「恒常的特徴」、「一時的特徴」という意味特徴の差異が必ずしも現れているわけではない。むしろ長語尾形が「恒常的特徴」のみならず、「一時的特徴」を表示し、また短語尾形が「一時的特徴」だけでなく、「恒常的特徴」を表示することがごく普通の文の中で認められる。例えば、以下の(2a)～(4b)は、語尾形式に関わりなく、形容詞述語には「恒常的特徴」が表示されている。一方、(5a)～(7b)は長語尾形も短語尾形も「一時的特徴」を表示している。このように従来の見方が原則的といえるほど強固なものでは決してなく、明らかに矛盾した見方であることがわかる⁽⁴⁾。

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| (2a) Он <i>умный</i> . | (概して) 彼は聡明(な人)です。 |
| (2b) Он <i>умен</i> . | (概して) 彼は聡明だ。 |
| (3a) Он <i>ленивый</i> . | (概して) 彼は不精(者)です。 |
| (3b) Он <i>ленив</i> . | (概して) 彼は不精だ。 |
| (4a) Она <i>талантливая</i> . | (概して) 彼女は才がある(女性です)。 |
| (4b) Она <i>талантлива</i> . | (概して) 彼女は才がある。 |
| (5a) Море <i>спокойное</i> . | (現時点で) 海が風いでいる。 |
| (5b) Море <i>спокойно</i> . | (現時点で) 海が風いでいる。 |
| (6a) Погода <i>прекрасная</i> . | (現時点で) 天気がすばらしい。 |
| (6b) Погода <i>прекрасна</i> . | (現時点で) 天気がすばらしい。 |
| (7a) Туман <i>густой</i> . | (現時点で) 霧が濃い。 |
| (7b) Туман <i>густ</i> . | (現時点で) 霧が濃い。 |

2. 「一時的特徴」、「恒常的特徴」の表示のしくみ

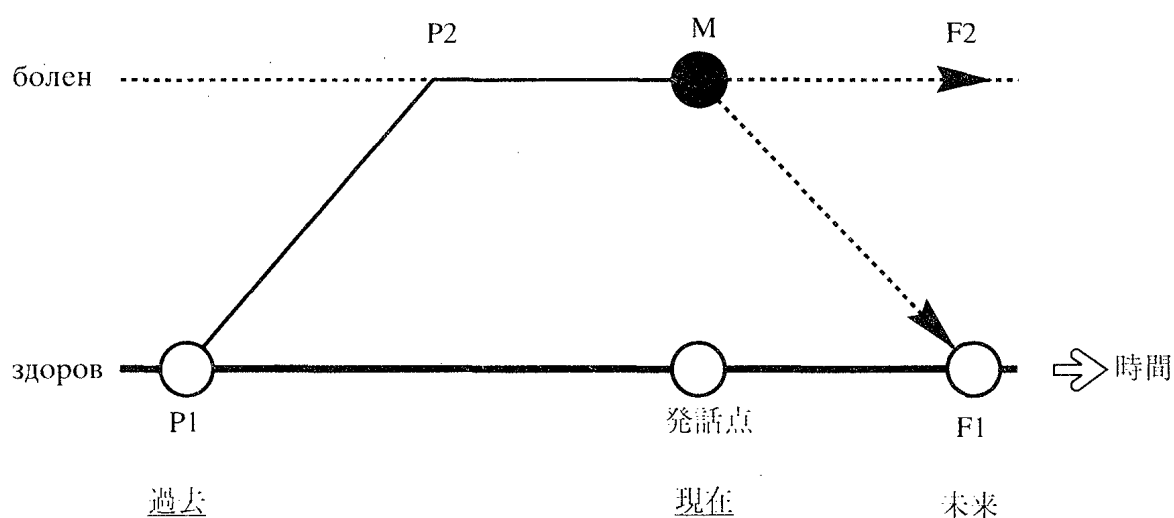
それでは、なぜ長語尾形が「一時的特徴」を表示し、短語尾形が「恒常的特徴」を表示することができるのか。まず短語尾形 *умен, ленив, талантлива* が *болен* と異なり、「一時的特徴」を表示しないのは、これらの形容詞が専ら対象に備わっていると見なされる固定的な性質、つまり、「質」を表すための形容詞であり、短語尾形も長語尾形と全く同義的に用いられるからである⁵⁾。他方、長語尾形 *спокойное, прекрасная, густой* が「一時的特徴」を表示できるのは、それらが主語である対象の「質」ではなく、「質的状态」を表すためである。原則的には、述語における長語尾形は、主語である対象に付与された固定的な性質、すなわち、「質」を表す。ところが、その対象自体の特質が、長語尾形による「質的状态」の表示を義務的にする場合が存在する。

(5a) ~ (7b) は、まさにそのようなケースに他ならない。そもそも *Море* というのは、しけと風を絶えず繰り返す存在であり、*Погода* も晴天、雨天、曇天といった様々な様相を呈する。また、*Туман* にも濃い、深いなどといった状態があり、決して一様ではない。つまり、*Море, Погода, Туман* は、複数の「質的状态」としての諸相を常に内在しているのである。その意味で、*Море, Погода, Туман* という存在は固定された性質を持ちえないのであり、結果的に、長語尾形も短語尾形と同様に「質的状态」を表すことになるのである。

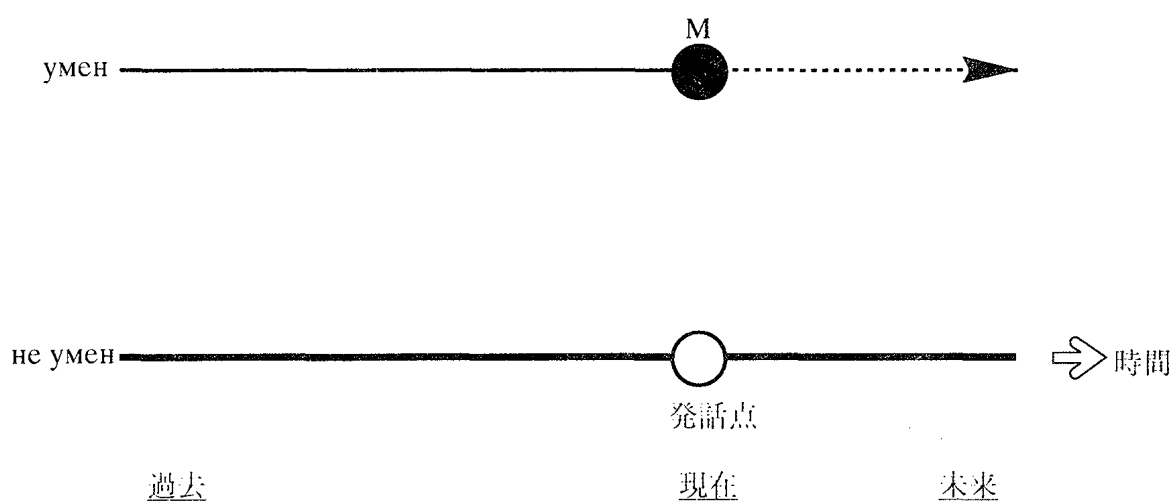
ここで「一時的特徴」、「恒常的特徴」の意味内容をさらに深く理解するために形容詞述語が「一時的特徴」を表示している文の意味構造と「恒常的特徴」を表示している文の意味構造との比較を通して両特徴の本質的な違いを見てみることにしたい。

次頁の図1は、(1a) において形容詞述語が「一時的特徴」を表示している文の意味構造を図式化したものである(図1、2は、いずれも白山による)。簡単に図1について説明すると、まず基本となる軸が二本ある。一つは点線と実線で表された上の軸で、これは *болен*、すなわち、「病んでいる」という「質的状态」を表している。二つめは下の太線で表された軸で、*здоров*、つまり、「健康である」という「質的状态」を表す軸と時間軸を重ね合わせたものである。Mは発話時点における「質的状态」を示す点で、P1は主語である対象 Он が過去のある時点において *здоров* という「質的状态」を表していたと考えられる点である。P2は過去において Он が *болен* という「質的状态」に達した点である。F1はОн が未来のある時点において *здоров* という「質的状态」に達すると予想される点である。それでは本題に戻ることにする。

<図1 : Он *болен*.>



<図2 : Он *умен*.>



「質的状态」とは、すでに述べたように本質的に対象の、あるいは対象に関わる、時間の中で捉えられる状態を示すが、状態が時間の中で捉えられるということは、ある意味では、その状態が必ずしも過去から一貫して保たれていたわけではないこと、あるいはその状態が未来に至るまでそのまま保持されるわけではないことを暗示している。例えば、図1で言えば、現時点では、すなわち、発話時点では、*болен* という質的状态を表しているが、生来病気を患っているという特別なケースを除けば、この病んでいる状態は元来の状態ではな

い。基本的には、**здоров** が正常な状態である。したがって、過去において **Он** が **здоров** という「質的状态」にあったことは、論理的に明らかである。また、時間の中で捉えられる状態というのは、未来において常に別のある状態に変化する可能性を内在していると考えられる。発話時における **болен** は、病んでいる状態がそのまま継続する可能性もあるが、**М** が **F1** に到達する、すなわち、病状が好転して健康な状態を取り戻す可能性も同時に秘めているわけである。このように考えると、発話時における **болен** は、主語である対象 **Он** の健康状態という過去・現在・未来に及ぶ一連の連続的な状態変化のプロセスにおける一時点の状態であると見ることができる。これをさらに一般化して考えると、形容詞述語が「質的状态」を表していれば、それは必然的に主語である対象、あるいは対象に関わる過去・現在・未来に及ぶ一連の状態変化のプロセスにおける現時点での「質的状态」、つまり、「一時的特徴」を表示するということになる。

これに対して形容詞述語が「恒常的特徴」を表示する文の意味構造はどのようになっているのであろうか。図2は、(2b)において形容詞述語が「恒常的特徴」を表示している文の意味構造を示したものである。この図2と図1を比較してみるとすぐに気がつくことがある。それは図2には図1に示されているような過去・現在・未来に及ぶ一連の性質変化のプロセスの軌跡が全く見られないということである。実は、この一連の性質変化のプロセスの有無—これが形容詞述語が「一時的特徴」を表示する文の意味構造と「恒常的特徴」を表示する文の意味構造との本質的な違いなのである。したがって、「恒常的特徴」を表示する文の意味構造には、このプロセスが完全に欠如しているために時間意識が顕在化されることがないのである⁽⁶⁾。**умен** という「質」を表す軸と時間軸との平行性はそれを見事に描いている。

3. アンケート調査

以上の考察から言えることは、「一時的特徴」、「恒常的特徴」の表示は短語尾形あるいは長語尾形といった語尾形式によって規定されるものではないということである。「一時的特徴」は、形容詞述語が「質的状态」と捉えられることによって、「恒常的特徴」は、「質」と捉えられることによって表示されるのである。すると必然的に次のような疑問が湧いてくる。二つの意味特徴の表示と語尾形式との緊密な関連性を主張する従来の見方が実際の形容詞述語の使用の中で一体どのような位置を占めているのか、また、従来の見方が果たし

てどの程度有意義性を持つのかという疑問である。より具体的に言えば、従来の見方は、形容詞述語が「一時的特徴」、「恒常的特徴」を表示するいくつかのタイプのうちの単なる一つにすぎないのか、さらに、それが仮に一つのタイプにすぎないにしろ、他のタイプと比べてより顕著に認められる見方として特に差別化することができるのかという疑問である。

そこで、この問題を明らかにするために、平成4年4月、モスクワ在住の65人のインフォーマント⁽⁷⁾を対象として「一時的特徴」、「恒常的特徴」の表示に関するアンケート調査を行った⁽⁸⁾。

3.1. 質問形式

アンケートの質問形式は以下のとおりである。

Какой оттенок имеет данное прилагательное:

а) **〈вообще〉** или б) **〈в этот момент〉** **〈именно сейчас〉** без контекста?

Инструкция:

При наличии оттенка а) **〈вообще〉**, обведите букву “А”

При наличии оттенка б) **〈в этот момент〉**, “В”

При наличии оттенка а) и б), “С”

Если выражение неправильно, “D”

Если вы затрудняетесь в выборе, “?”

Если у вас есть какое-либо замечание по поводу конкретного примера, впишите его в оставленном для этого месте на той же строчке.

Он *болен*. [A / B / C / D / ? /]

Он *гениален*. [A / B / C / D / ? /]

Она *свободная*. [A / B / C / D / ? /]

3.2. 調査結果⁽⁹⁾

このアンケート調査で得られた資料を集計・分析した結果、形容詞述語が「一時的特徴」、「恒常的特徴」を表示するタイプを大きく次の六つに分類できることが判明した。

- 【1】長語尾形は「恒常的特徴」を、短語尾形は「一時的特徴」を表示するタイプ
- 【2】長語尾形、短語尾形双方ともに「恒常的特徴」を表示するタイプ
- 【3】長語尾形、短語尾形双方ともに「一時的特徴」を表示するタイプ

【4】 長語尾形は「恒常的特徴」あるいは「一時的特徴」を、短語尾形は「一時的特徴」を表示するタイプ

【5】 長語尾形、短語尾形双方ともに「一時的特徴」あるいは「恒常的特徴」を表示するタイプ

【6】 述語の使用が定着した短語尾形が「一時的特徴」を表示するタイプ

以下に、各タイプの例文および集計結果を記す。

<表1～6 についての留意事項>

※ A・・・「恒常的特徴」を表示している

B・・・「一時的特徴」を表示している

C・・・「恒常的特徴」あるいは「一時的特徴」を表示している

D・・・誤文である

?・・・わからない

※※ 表の数値はパーセンテージを（小数点第二位で四捨五入）、括弧内の分数は分母が回答者母数で、分子が回答数を表している。分母のばらつきは記入漏れによって生じたものである。

3.2.1. 【1】 のタイプ

(1a) Он *больной*. (概して) 彼は病弱（な者）である。

(1b) Он *болен*. (現時点で) 彼は病んでいる。

(2a) Он *плохой*. (概して) 彼は悪い奴だ。

(2b) Он *плох*. (現時点で) 彼は重態だ。

(3a) Он *злой*. (概して) 彼は意地悪（な奴）だ。

(3b) Он *зол*. (現時点で) 彼は怒っている。

<表1>

	A	B	C	D	?
(1a)	50.8 (33/65)	16.9 (11/65)	30.8 (20/65)	1.5 (1/65)	0.0 (0/65)
(1b)	1.5 (1/65)	67.7 (44/65)	30.8 (20/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(2a)	73.0 (46/63)	3.2 (2/63)	20.6 (13/63)	0.0 (0/63)	3.2 (2/63)
(2b)	9.2 (6/65)	64.6 (42/65)	20.0 (13/65)	1.5 (1/65)	4.6 (3/65)
(3a)	53.9 (35/65)	6.2 (4/65)	40.0 (26/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(3b)	6.3 (4/64)	65.6 (42/64)	28.1 (18/64)	0.0 (0/64)	0.0 (0/64)

3.2.2. 【2】 のタイプ

- (4a) Он *трудолюбивый*. (概して) 彼は勤勉 (な人) です。
 (4b) Он *трудолюбив*. (概して) 彼は勤勉だ。
 (5a) Он *умный*. (概して) 彼は聡明 (な人) です。
 (5b) Он *умен*. (概して) 彼は聡明だ。
 (6a) Он *ленивый*. (概して) 彼は不精 (者) です。
 (6b) Он *ленив*. (概して) 彼は不精だ。
 (7a) Она *талантливая*. (概して) 彼女は才がある (女性です)。
 (7b) Она *талантлива*. (概して) 彼女は才がある。
 (8a) Истина *простая*. (概して) 真理は単純なもんだ。
 (8b) Истина *проста*. (概して) 真理は単純である。
 (9a) Климат *изменчивый*. (概して) 気候は変わりやすいもんだ。
 (9b) Климат *изменчив*. (概して) 気候は変わりやすいものである。

<表2>

	A	B	C	D	?
(4a)	92.3 (60/65)	3.1 (2/65)	4.6 (3/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(4b)	92.2 (59/64)	1.6 (1/64)	6.3 (4/64)	0.0 (0/64)	0.0 (0/64)
(5a)	90.8 (59/65)	1.5 (1/65)	7.7 (5/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(5b)	95.4 (62/65)	0.0 (0/65)	4.6 (3/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(6a)	92.3 (60/65)	0.0 (0/65)	7.7 (5/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(6b)	81.3 (52/64)	3.1 (2/64)	15.6 (10/64)	0.0 (0/64)	0.0 (0/64)
(7a)	93.8 (60/64)	0.0 (0/64)	4.7 (3/64)	0.0 (0/64)	1.6 (1/64)
(7b)	95.4 (62/65)	1.5 (1/65)	3.1 (2/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(8a)	64.6 (42/65)	10.8 (7/65)	13.9 (9/65)	7.7 (5/65)	3.1 (2/65)
(8b)	75.4 (49/65)	3.1 (2/65)	16.9 (11/65)	0.0 (0/65)	4.6 (3/65)
(9a)	83.1 (54/65)	4.6 (3/65)	10.8 (7/65)	0.0 (0/65)	1.5 (1/65)
(9b)	85.7 (54/63)	4.8 (3/63)	6.4 (4/63)	1.6 (1/63)	1.6 (1/63)

3.2.3. 【3】 のタイプ

- (10a) Море *спокойное*. (現時点で) 海が凪いでいる。
 (10b) Море *спокойно*. (現時点で) 海が凪いでいる。
 (11a) Погода *прекрасная*. (現時点で) 天気がすばらしい。
 (11b) Погода *прекрасна*. (現時点で) 天気がすばらしい。

- (12a) Туман *густой*. (現時点で) 霧が濃い。
 (12b) Туман *густ*. (現時点で) 霧が濃い。
 (13a) Дождь *сильный*. (現時点で) 雨が強い。
 (13b) Дождь *силен*. (現時点で) 雨が強い。
 (14a) Вода *горячая*. (現時点で) お湯が熱い。
 (14b) Вода *горяча*. (現時点で) お湯が熱い。
 (15a) Простыня *влажная*. (現時点で) タオルが湿っぽい。
 (15b) Простыня *влажна*. (現時点で) タオルが湿っぽい。
 (16a) Аудитория *полная*. (現時点で) 教室は (人で) 一杯だ。
 (16b) Аудитория *полна*. (現時点で) 教室は (人で) 一杯だ。

<表3>

	A	B	C	D	?
(10a)	3.1 (2/65)	78.5 (51/65)	18.5 (12/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(10b)	0.0 (0/65)	90.8 (59/65)	9.2 (6/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(11a)	1.5 (1/65)	90.8 (59/65)	7.7 (5/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(11b)	0.0 (0/65)	92.3 (60/65)	6.2 (4/65)	0.0 (0/65)	1.5 (1/65)
(12a)	3.1 (2/65)	84.6 (55/65)	12.3 (8/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(12b)	0.0 (0/63)	84.1 (53/63)	7.9 (5/63)	7.9 (5/63)	0.0 (0/63)
(13a)	3.1 (2/65)	83.1 (54/65)	10.8 (7/65)	0.0 (0/65)	3.1 (2/65)
(13b)	0.0 (0/65)	73.9 (48/65)	4.6 (3/65)	18.5 (12/65)	3.1 (2/65)
(14a)	9.2 (6/65)	66.2 (43/65)	23.1 (15/65)	1.5 (1/65)	0.0 (0/65)
(14b)	3.1 (2/65)	80.0 (52/65)	13.9 (9/65)	0.0 (0/65)	3.1 (2/65)
(15a)	6.2 (4/65)	80.0 (52/65)	12.3 (8/65)	0.0 (0/65)	1.5 (1/65)
(15b)	3.1 (2/65)	80.0 (52/65)	6.2 (4/65)	7.7 (5/65)	3.1 (2/65)
(16a)	1.6 (1/62)	88.7 (55/62)	6.5 (4/62)	1.6 (1/62)	1.6 (1/62)
(16b)	3.1 (2/64)	87.5 (56/64)	7.8 (5/64)	1.6 (1/64)	0.0 (0/64)

3.2.4. 【4】 のタイプ

- (17a) Он *сердитый*. (概して) 彼は短気 (な人) だ。／
 (現時点で) 彼は怒っている。
 (17b) Он *сердит*. (現時点で) 彼は怒っている。
 (18a) Он *бледный*. (概して) 彼は生彩がない (人だ) 。／
 (現時点で) 彼は顔色が悪い。

- (18b) Он *бледен*. (現時点で) 彼は顔色が悪い。
- (19a) Она *печальная*. (概して) 彼女は哀れ (な女性) だ。／
(現時点で) 彼女は悲しんでいる。
- (19b) Она *печальна*. (現時点で) 彼女は悲しんでいる。
- (20a) Она *мрачная*. (概して) 彼女は陰気 (な女性) だ。／
(現時点で) 彼女は陰鬱な気分だ。
- (20b) Она *мрачна*. (現時点で) 彼女は陰鬱な気分だ。
- (21a) Она *непокойная*. (概して) 彼女は落ち着きがない。／
(現時点で) 彼女はそわそわしている。
- (21b) Она *непокойна*. (現時点で) 彼女はそわそわしている。
- (22a) Она *веселая*. (概して) 彼女は快活 (な女性) だ。／
(現時点で) 彼女は愉快的気分だ。
- (22b) Она *весела*. (現時点で) 彼女は愉快的気分だ。

<表4>

	A	B	C	D	?
(17a)	10.9 (7/64)	51.6 (33/64)	37.5 (24/64)	0.0 (0/64)	0.0 (0/64)
(17b)	0.0 (0/65)	83.1 (54/65)	16.9 (11/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(18a)	7.8 (5/64)	48.4 (31/64)	43.8 (28/64)	0.0 (0/64)	0.0 (0/64)
(18b)	1.5 (1/65)	73.9 (48/65)	24.6 (16/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(19a)	14.1 (9/64)	46.9 (30/64)	39.1 (25/64)	0.0 (0/64)	0.0 (0/64)
(19b)	1.5 (1/65)	70.8 (46/65)	27.7 (18/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(20a)	12.3 (8/65)	32.3 (21/65)	52.3 (34/65)	1.5 (1/65)	1.5 (1/65)
(20b)	1.5 (1/65)	70.8 (46/65)	27.7 (18/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(21a)	28.1 (18/64)	21.9 (14/64)	48.4 (31/64)	1.6 (1/64)	0.0 (0/64)
(21b)	1.5 (1/65)	72.3 (47/65)	24.6 (16/65)	0.0 (0/65)	1.5 (1/65)
(22a)	33.3 (21/63)	14.3 (9/63)	52.4 (33/63)	0.0 (0/63)	0.0 (0/63)
(22b)	4.6 (3/65)	58.5 (38/65)	35.4 (23/65)	1.5 (1/65)	0.0 (0/65)

3.2.5 【5】 のタイプ

- (23a) Он *скучный*. (概して) 彼はつまらない奴だ。／
(現時点で) 彼は退屈にしている。
- (23b) Он *скучен*. (概して) 彼はつまらない奴だ。／
(現時点で) 彼は退屈にしている。

- (24a) Он *угрюмый*. (概して) 彼は無愛想 (な奴) だ。／
(現時点で) 彼は不機嫌だ。
- (24b) Он *угрюм*. (概して) 彼は無愛想 (な奴) だ。／
(現時点で) 彼は不機嫌だ。
- (25a) Она *счастливая*. (概して) 彼女は幸福者だ。／
(現時点で) 彼女は幸せである。
- (25b) Она *счастлива*. (概して) 彼女は幸福者だ。／
(現時点で) 彼女は幸せである。

<表5>

	A	B	C	D	?
(23a)	51.6 (33/64)	1.6 (1/64)	46.9 (30/64)	0.0 (0/64)	0.0 (0/64)
(23b)	41.5 (27/65)	15.4 (10/65)	43.1 (28/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(24a)	36.9 (24/65)	12.3 (8/65)	50.8 (33/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(24b)	20.0 (13/65)	33.9 (22/65)	46.2 (30/65)	0.0 (0/65)	0.0 (0/65)
(25a)	30.8 (20/65)	16.9 (11/65)	50.8 (33/65)	0.0 (0/65)	1.5 (1/65)
(25b)	12.3 (8/65)	35.4 (23/65)	50.8 (33/65)	0.0 (0/65)	1.5 (1/65)

3.2.6. 【6】のタイプ

- (26a) * Она *готовая*.
(26b) Она *готова*. (現時点で) 彼女は準備が出来ている。
- (27a) * Звезды *видные*.
(27b) Звезды *видны*. (現時点で) 星が見える。
- (28a) * Что-то шаги *слышны*.
(28b) Что-то шаги *слышны*. (現時点で) 何か足音が聞こえる。

*は誤文または正文として問題のあることを示している。

<表6>

	A	B	C	D	?
(26a)	0.0 (0/65)	38.5 (25/65)	3.1 (2/65)	44.6 (29/65)	13.8 (9/65)
(26b)	1.5 (1/65)	90.8 (59/65)	6.2 (4/65)	0.0 (0/65)	1.5 (1/65)
(27a)	1.5 (1/65)	10.8 (7/65)	1.5 (1/65)	78.5 (51/65)	7.7 (5/65)
(27b)	0.0 (0/65)	80.0 (52/65)	18.5 (12/65)	1.5 (1/65)	0.0 (0/65)
(28a)	3.1 (2/64)	9.4 (6/64)	0.0 (0/64)	82.8 (53/64)	4.7 (3/64)
(28b)	0.0 (0/63)	95.2 (60/63)	1.6 (1/63)	1.6 (1/63)	1.6 (1/63)

3.2.7. 調査結果のまとめ⁽¹⁰⁾

ここでアンケート調査の結果を簡潔にまとめておく。

- 「一時的特徴」「恒常的特徴」を表示する形容詞は、大きく六つのタイプに分類される。
- 【1】のタイプを他のタイプから差別化しうる根拠は、特に確認されなかった。
- 【1】のタイプでは、長語尾形が「恒常的特徴」を、短語尾形が「一時的特徴」を表示することが、傾向として辛うじて保たれているにすぎない。しかも、この伝統的な見方を支える【1】のタイプの文は、調査で用いた全例文を通してわずか三例しか確認されなかった。
- 【2】【3】【6】のタイプにおける「恒常的特徴」あるいは「一時的特徴」の表示は、固定的である。
- 【4】のタイプでは、短語尾形による「一時的特徴」の表示は、固定的である。長語尾形については、「恒常的特徴」、「一時的特徴」双方の表示が可能である。但し、全体的な傾向として「一時的特徴」の表示が優位なケース（→ (17a) (18a) (19a) (20a) ）、「恒常的特徴」の表示が優位なケース（→ (22a) ）、また、そのどちらでもない中間的なケース（→ (21a) ）が存在する。
- 【5】のタイプでは、長語尾形、短語尾形双方ともに「一時的特徴」あるいは「恒常的特徴」の表示が可能であるが、全体的な傾向として長語尾形、短語尾形双方ともに「恒常的特徴」の表示が優位を占めるケース（→ (23a) (23b) ）、そして、長語尾形では「恒常的特徴」の表示が、短語尾形では「一時的特徴」の表示が優位を占めるケース（→ (24a) (24b) (25a))

(25b)) が存在する。

4. 結び

以上、形容詞述語によって表示される「一時的特徴」、「恒常的特徴」という意味特徴の問題を検討してきたが、結論として次のことが言えると思われる。

「一時的特徴」、「恒常的特徴」の表示は、短語尾形または長語尾形といった語尾形式によって決まるのではなく、前者は所与の形容詞が「質的状态」、後者は「質」と捉えられるか否かによって決まる。そして Виноградов に代表される従来の見方は、形容詞述語による「一時的特徴」、「恒常的特徴」の表示という現象全体のある一面だけを取り出して説明したものにはすぎない。

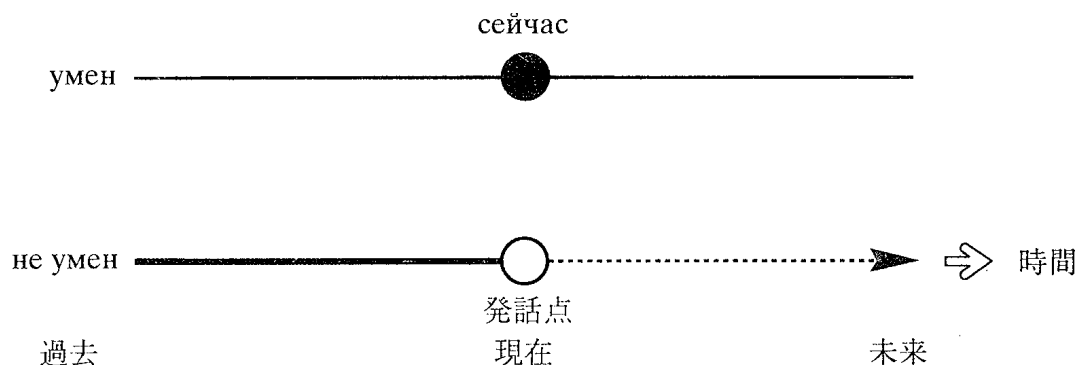
【注】

※ [] のはじめの数字は文献番号を、後の数字は当該文献の頁を表している。

- (1) 本稿は、1993年10月22日、神戸市外国語大学で行われた日本ロシア文学会総会での研究報告を論文の形式に書き改めたものである。
- (2) *больной* を名詞化された「病人」あるいは「精神異常者」と読み取ることもできるが、ここでは名詞化されていない形容詞として扱っている。
- (3) 伝統的な見方の確立の経緯については [18・2-8] に詳しく述べられている。各研究者の個々の指摘は、[6・126]、[5・225]、[9・285]、[10・83]、[1・234]、[13・74-76]、[2・263,270] を参照。
- (4) 伝統的な見方の矛盾についてはすでに多くの研究者が指摘している。例えば、[4・111-115]、[11・85-86]、[12・63-73]、[15・194]、[16・20]、[17・302] 等々。
- (5) これに関連して Юдина Л.П., Дымарская-Бабалян И.Н. は専ら「質」を表すための形容詞は純粋に文体上の目的で語尾形式の選択がなされると指摘している [3・70] [14・137]。
- (6) Федосюк М.Ю. は専ら「質」を表す *умен* のようなタイプの形容詞でも文脈や時の状況語を補えば、その性質に一時性を付与できるとしている [7・108]。

(例) Вообще-то он глупый, но сейчас в этом разговоре он удивительно *умен*.

まあ概して奴は馬鹿だけど、今の話の中じゃ、すごく冴えてたなあ。



ただし、上の図に示されているように（図は臼山による）**умен**の表示する一時性はあくまでも文脈に依拠した消極的なものであり、点的な性質として現れる。また、この場合の**умен**は、厳密には「（頭が）冴えている」の意であり、本来に「聡明である」の意ではないことも興味深い事実である。

- (7) インフォーマントは、モスクワ大学及びモスクワ教育大学の文科系の学生が中心である。尚、インフォーマントの個人情報（氏名、年齢、性別、職業、専門、出身地、民族名）については、[18・112-115]を参照。
- (8) 形容詞の選択基準について触れておくと、まず定説の実証的な検証を行うために研究者の用いている語彙を基本的に取り上げた。さらにロシア語頻度辞典に収められている性質形容詞の中から研究者の用いている語彙と類似であると思われるものを抽出し、調査の対象として加えた。
- (9) アンケートの例文は全部で288文（長語尾形の例文は143文、短語尾形の例文は145文で基本的にペアをなしている）あるが、全例文の集計結果を記載することはできないので、本稿ではその一部の56文を取り上げた。ここでは前に挙げた例文と重複するものが含まれているが、集計結果を見やすくするために改めて例文の番号を（1a）から始めている。
- (10) アンケートの調査結果の詳細な分析については、[18・33-83]を参照。

【文献】

1. Булаховский, Л.А.: 1937, *Курс русского литературного языка*. 2-изд., исправленное и дополненное, Харьков.
2. Виноградов, В.В.: 1947, *Русский язык (грамматическое учение о слове)*. М.,-Л.
3. Дымарская-Бабалян. И.Н.: 1961, “О нарушении параллелизма кратких и полных прилагательных в сказуемом.” – *Науч. тр. Ерев. гос. ун-та*, т.74, Серия филологических наук, вып. 4, Ереван, с.69-83
4. Мясников, Г.Ф.: 1968, “Краткие и полные формы прилагательных в составе сказуемого в современном русском языке, изменения и его тенденции.” – *Дис.*

- канд. филол. наук., Куйбышевский гос. пед. ин-т им. В.В. Куйбышева, Куйбышев.
5. Пешковский, А.М.: 1956, *Русский синтаксис в научном освещении*. 7-изд. М.
 6. Стоюнин, В.: 1911, *Высший курс русской грамматики*. 6-изд. Спб.
 7. Федосюк, М.Ю.: 1988, "О синонимии полных и кратких форм прилагательных в русском языке." – В кн.: *Вопросы истории русского языка XIX – XX веков (Межвузовский сборник научных трудов)*, МГПИ им. В.И. Ленина, М., с.104-116.
 8. *Частотный словарь русского языка*. Под ред. Л.Н. Засориной, М., 1977.
 9. Шахматов, А.А.: 1925, *Синтаксис русского языка*. вып. 1-й, учение о предложении и о словосочетаниях, Л.
 10. Шахматов, А.А.: 1927, *Синтаксис русского языка*. вып 2-й, учение о частях речи, дополнения, Л.
 11. Шведова, Н.Ю.: 1952, "Полные и краткие формы имен прилагательных в составе сказуемого в современном русском литературном языке." – *Уч. зап. МГУ*, вып. 150, Русский язык, М., с.73-132.
 12. Шкарупо, З.В.: 1957, "Краткие и полные предикативные прилагательные с грамматическим значением постоянного признака." – *Наук. зап. Одеск. пед. ин-т*, т.18, Одесса, с.63-73.
 13. Щерба, Л.В.: 1957, *Избранные работы по русскому языку*. М.
 14. Юдина, Л.П.: 1964, "Краткие и полные качественные прилагательные в составном сказуемом." – В кн.: *Из опыта преподавания русского языка иностранцам*, Изд-во МГУ, М., с.128-157.
 15. Babby, L.H.: *A transformational grammar of Russian adjectives*. The Hague and Paris, 1975.
 16. Gusstavsson, Sven: 1976, "Predicate adjectives with the copula byt' in Modern Russian." – *Acta universitatis Stockholmiensis, Stockholm Slavic studies* 10, Almqvist & Wiksell Internatinal, Stockholm.
 17. Nichols, Johanna: 1981, *Predicate Nominals. A partial surface syntax of Russian*. University of California press, Barkeley – Los Angeles – London.
 18. 臼山利信: 1993, 「述語的用法における形容詞長語尾形及び短語尾形の意味特徴について」, 修士論文, 東京外語大学.

О семантических признаках полных и кратких форм
прилагательных в роли сказуемого
– К вопросу об обозначении временного и постоянного признаков –

Тосинобу УСУЯМА

Сегодня в школьной грамматике и многих научных литературных работах относительно употребления полных и кратких форм прилагательных в сказуемом широко распространено следующее положение: полные формы прилагательных обозначают постоянный признак, а краткие – временный.

Данная статья имеет своей целью пересмотреть прежнее положение не с точки зрения морфологии, а семантики и представить наше мнение об обозначении обоих признаков.

Прежнее традиционное положение, впервые отмеченное В. Стоюниным в “Высшем курсе русской грамматики” (1876), было после замечено несколькими другими лингвистами (А.М. Пешковский, А.А. Шахматов, Л.В. Щерба и др.) и в последствии в основном установлено В.В. Виноградовым в “Русском языке” (1947). По нашему мнению, причина его широкого распространения заключается в том, что по сравнению с бытовавшими до Виноградова объяснениями Виноградов объяснил оба признака более четко, введя семантические понятия “качество” (оно является закрепленным за предметом и независимым от времени характером) и “качественное состояние” (оно есть признаваемое во времени состояние предмета или является каким-либо связанным с предметом состоянием).

Несмотря на это, прежнее положение не в такой мере закрепленное, как принципиальное. Языковые факты показывают, что нередко есть случаи, где полные прилагательные в сказуемом обозначают не постоянный признак, а временный, и напротив краткие – не временный, а постоянный. Хотя это вовсе не может считаться как исключение. Значит, в данной конечной форме прилагательных не обязательно появляется различие семантических признаков.

Почему же временный признак обозначается полными формами прилагательных, а постоянный – краткими? Это потому, что обозначение временного и постоянного признаков не определяется различием форм прилагательных. Оно определяется семантикой данного прилагательного, т.е. первый – качественном состоянием, а последний – качеством.

Если это правильно, то тогда естественно напрашиваются следующие вопросы: какое место занимает в практическом употреблении прилагательных в сказуемом традиционное положение, в котором утверждается тесная связь обозначения обоих признаков с конечной формой прилагательных? и в какой мере имеет значимость

прежнее положение?

Для того, чтобы выяснить эти вопросы, мы провели в Москве лингвистическое анкетирование, опросив 65 информантов. В результате тщательного анализа собранных ответов оказалось, что качественные прилагательные в сказуемом, классифицируются главным образом по 6 типам, и что среди всех примеров, проверенных нами, было только три примера, которые подтверждают прежнее традиционное положение. Притом эти примеры едва сохраняются как тенденция.

В итоге нами был сделан следующий вывод.

[1] Временный и постоянный признаки, обозначаемые прилагательными, возникают не из морфологических факторов, т.е. различия обеих форм прилагательных, а из определенных семантических факторов, т.е. первый – из качественного состояния, а последний – из качества.

[2] Прежнее положение, выдвинутое Виноградовым, не что иное, как лишь одностороннее объяснение явления обозначения обоих признаков прилагательными в сказуемом.